成人式

新しい成人を祝福

該当者は一千百余名

おとなの仲間入りをする市内の新成人、一千百八十四名（男子六百四十二名、女子六百四十二名）を祝福する当市の成人式は、一月十五日成人の日に、小体育館で次のとおり挙行されます。

◇式辞　新春早々市内在住の該当者（昭和二十二年一月十六日から二十三年一月十五日までの間に生まれた者）あてに案内状を発送しました。成人式当日は、父兄各位も多数ご参加くださるよう市では望んでいます。

◇受付時　午前九時～九時半

◇成人式典　午前九時半開式

◇第八回成人該当者講座

◇記念講演会「習俗と日本の面逸」

一中ブラスバンド演奏

◇正午終了散会

◇成人該当者の皆さんへ

おとなの仲間入りをさせてください。新成人、男子五百四十二名、女子六百四十二名。

成人式出席に際してはたいせつに身を飾り合うことのないよう、服装は紫な服装でご参加ください。

保護者付き添いで

就学児童の健康診断

今年の四月から一年生になる就学児童の健康診断が次表のとおり実施されます。

診断日当日は、保護者付き添いで、届け出しましたが、通知れのかたがありましたら亟急、教育課（教育課）へご連絡ください。

学校別健康診断実施表

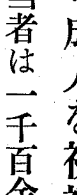
実施日時	児童数	新潟小	小合小	市瀬ノ小	結小	阿賀小	金津小	小東合小	第二小	第一小	万日小
		1月26日13時00分	1月23日13時30分	1月18日12時30分	1月18日10分	1月11日12時30分	2月1日13時00分	2月8日13時00分	2月14日13時00分	2月14日12時30分	2月15日13時00分
		47人	50人	33人	101人	26人	104人	43人	186人	253人	34人

青年への期待

新津市教育長　巻口政吉

年頃に当たり、希望に燃える青年諸君の助産を祝うとともに、自己の半生を顧み、その経験にかみ、今私が心から願いかれ、この言葉をこつだけ述べてみたいと存じます。

それは「青年時代には学習・修練を重点として生きることが最も賢明である」と思われますからです。



青年、とくに勤労青年にとっては、日々の仕事に意義を見出し、それにまり現実を無視する者があり、また、現実を重視するあまり理想を失ったかに見える者がありますが、いずれも適当な態度とは言えないでしょう。

しかし、それだけではたりません。つねに仕事以外、専門以外のことに興味と関心を持ち、あらゆる場とによって学ぶ心の器は味わうべきです。

自己の人間形成の機会としてとらえ、視野を広げ判断力を養い、創造性を高めることが必要だと考えます。

私は、平素、当市青年の旺盛な研修活動と数々の実績に驚嘆するとともに、幾多の困難を克服しようと思うものであります。

青年の期待は、比企政巳君が昨秋全国定時制高校生徒の体験発表会において、みごとな成績を知り、まったく感激に堪えない次第であります。

私は、諸君が前記比企君の事例などを参考として、人生まだとたくない貴重な青年時代を最も有効にいろいろ考えられます。

「一年の計は元旦にあり」とは古くして新しい言葉であります。

私は、諸君が前記比企君の事例などを参考として、人生まだとたくない貴重な青年時代を最も有効に使うべく、年頭において、その志をたしかめ、さらに実践の決意を新たにせられるよう期待してやみません。

自己の人間形成の機会として

「農村に生きる」と題するその貴重な発表（別項掲載）を見て、私は同君の農業経営者としての積極的、研究的な活動と環境改善に感嘆するとともに、幾多の困難を克服しようとしている同君の姿に敬意を表するとともに、ますます健闘されることを期待してやみません。

「農村に生きる」と題して

とであります。

農村に生きる

新津高校定時制四年　東金沢比企政巳

七年間のブランクの後、再度定時制の一年に入学した私は、母や妻の理解ある協力で、あと数カ月後に卒業の栄冠を勝ち得ようとしております。

私は一才の時、両親を亡くし、同じ年にまた祖父を失いました。以後、私は貧しい母子家庭の子供としての運命を歩んできました。

中学校を卒業する頃、多くの少年のように私も、全日制高校進学の希望を抱いていました。

しかし、あの母の荒れた手や、やつれた顔を見るとそれを願うことは無理にせ十年前私は新津高校定時制の一年に入学してきました。

当時の我が家は機織等も不足でしたから、ようやくの百姓にとって、どうしても私の労働力が必要でした。私自身のきつい労働からついに身体の調子を狂はせ、病気で倒れてしまいました。

私の体力とともに学校と労働の両立はむずかしく、一年で退学してしまいました。

学校をあきらめたその後の生活は、私を全く年若い農村人にしました。私はやがて我が家の農業経営や、その発展を考えるようにもなりました。

いろいろの参考書を求めて農業簿記の記帳や帳作りの理論の応用等を考えたりもしましたが、学問の少ない私にはとても手に及ばないことがしばしばありました。

その頃の私の胸に「こ定時制に入学しなければ」という勇気が自然と湧いてきました。

このようにして私は母と妻に励まされ、三年前自分の年も考えずに、新津高校定時制の一年にまた入学してきたのです。

私は現在、昼間農業経営者として働き夜間には新津高校に通っている二十六才の高校四年生です。

そこには、田植えと稲刈りは、学校と労働の両立をとられるほどいかが私の大問題です。

ですから私の級仲に考えたのが作業の共同化であります。

実施して翌年の四月になりますが、初めのうちはなかなかうまくいきませんでした。

こうして毎日々の中で、私にはいろいろ解決せねばならない一つの大きな問題があります。

それというのも、私は現在まで村の親戚にあたる二軒の家の面倒をみていますが、いずれも男手がなく、私の助けを必要とします。

そこには、どこにもあるような家庭的な助け合いも必要になってきます。

私はそれらの家に肥料設計を書きに出かけたり農業申告等も書きに出かけます。

私の機械作業は午後五時までにとどめなければなりません。初めはその仕事の無計画から他の農家に遅れをとり、田植えや稲刈りも忙しい時に全く仕事がストップしてしまって、どうしようもない状態でした。

ばってしたこともしばしばでした。そこで私は、この苦がい体験から、学校で習得した知識を応用して農業簿記をこころみました。

一年、二年と実施した共同化は帳簿記を基礎として、今年から私は小形県校で習得した知識を応用して農業簿記をこころみました。

私は、今年から私は小形県の晩成道肥我塔を創り入れてみました。はじめはちょっと冒険ではないかと思ったが、私は進んで米作り日本一の田形県の日西町の片倉桃次郎さんの農業を実地にたずねました。

私の農業経営は午後五時の精神と創意工夫が大切であります。でもそこに、協力の精神と創意工夫が大切であります。

私は、農業技術の面では、農業技術の面では、農業の発展のためにも、農業の発展のためにも、農業の発展のためにも